

伊東市指定文化財元禄地震津波供養塔

伊東市宇佐美ほか

1. 概要

元禄地震津波供養塔は伊東市宇佐美の行蓮寺（ぎょうれんじ）、玖須美の仏現寺（ぶつげんじ）、川奈の恵鏡院（えきょういん）にあります。元禄 16 年 11 月 22 日（西暦 1703 年 12 月 30 日）未明に伊豆・相模・武蔵・上総・安房などを襲った元禄地震（M7.9～8.2）が引き起こした津波により亡くなった人々を供養し、津波災害の教訓を伝えるために建立されたものです。

2. 観察のポイントなど

平成 18 年 3 月 28 日に伊東市が新しく文化財として指定した元禄地震津波供養塔は全部で 4 基あります。元禄地震の際に津波の被害のあった伊東市宇佐美、玖須美、川奈の 3 地域にあります。

それぞれの供養塔はお寺の境内にあります。観察の際は文化財を傷つけたりすることのないよう、また、お寺にも迷惑がかからないよう注意しましょう。

(1) 行蓮寺（伊東市宇佐美）

伊東市宇佐美の海岸近くに行蓮寺があります。供養塔はお寺の境内入ってすぐ左側にありますが、これは、元禄地震津波から 60 年経過後の供養塔です。この石碑の背面には、元禄地震の 70 年前に発生した寛永小田原地震（寛永 10 年（西暦 1633 年））の時は地震発生後しばらくしてから津波が襲ってきたが、元禄地震の際は地震発生直後に津波が来襲し、多くの犠牲者が出たことが記されています。

また、行蓮寺の石段には関東大震災（大正 12 年）の際の津波が届いたとされる位置に石碑が設置されているので、ぜひこちらも見てください。



〔行蓮寺の元禄地震津波供養塔〕



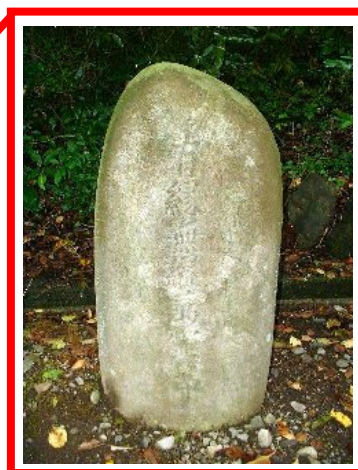
〔行蓮寺の石段にある関東大震災津波の記録〕

(2) 仏現寺 (伊東市玖須美)



仏現寺には2基の供養塔が安置されています。もともと他の場所にあったものですが、工事等の理由により現在地に安置されたものです(写真左側手前の2基)。ここには関東大震災の津波供養碑(写真左側奥)もあります。

(3) 恵鏡院 (伊東市川奈)



[恵鏡院の供養塔]

伊東市川奈の恵鏡院境内には供養塔が1基あります。

この供養塔は、以前川奈の集落の中にあつたとされています。ここには元禄地震の年号と村民二百名の犠牲者が出たことが刻まれています。

3. アクセス

- ①行蓮寺は宇佐美海岸の付近、宇佐美海水浴場から宇佐美漁港に向かって左側、留田橋を越えた先にあります。供養塔は参道を登って左側。参道の途中にある関東大震災津波の記録も忘れずに。
- ②仏現寺は伊東市役所隣り。供養塔は本堂前の階段を下って、山門の手前(裏側)にあります。
- ③恵鏡院は伊東市川奈駅そば、小室コミュニティセンター(市役所川奈支所)の隣りから登ります。供養塔は駐車場の片隅にあります。